【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和3年3月4日(2021.3.4)

【公表番号】特表2020-506961(P2020-506961A)
【公表日】令和2年3月5日(2020.3.5)
【年通号数】公開・登録公報2020-009
【出願番号】特願2019-560065(P2019-560065)
【国際特許分類】
*Ａ０１Ｎ　37/46　(2006.01)*
*Ｃ０７Ｋ　14/00　(2006.01)*
*Ａ０１Ｐ　 7/04　(2006.01)*
*Ａ０１Ｎ　25/02　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　37/46
Ｃ０７Ｋ　14/00　ＺＮＡ
Ａ０１Ｐ　 7/04
Ａ０１Ｎ　25/02

【手続補正書】
【提出日】令和3年1月20日(2021.1.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
農業害虫の適応度を低下させる方法であって、
以下：セクロピン（配列番号８２）、メリチン、コプシン、ドロソマイシン（配列番号９３）、ダームシジン（配列番号８１）、アンドロピン（配列番号８３）、モリシン（配列番号８４）、セラトトキシン（配列番号８５）、アバエシン（配列番号８６）、アピダエシン（配列番号８７）、プロフェニン（配列番号８８）、インドリシジン（配列番号８９）、プロテグリン（配列番号９０）、タキプレシン（配列番号９１）又はデフェンシン（配列番号９２）の１つ以上と少なくとも９０％の配列同一性を有する抗微生物ペプチドを前記農業害虫に送達すること
を含む方法。
【請求項２】
前記送達は、前記農業害虫が成長、生活、繁殖、摂餌又は寄生する少なくとも１つの生息場所に前記抗微生物ペプチドを送達することを含む、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記送達は、前記抗微生物ペプチドを農産物上に噴霧することを含む、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
前記抗微生物ペプチドは、前記農業害虫による摂取のための、昆虫が摂食可能な組成物として送達される、請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
前記抗微生物ペプチドは、農業的に許容可能な担体と共に液体、固体、エアロゾル、ペースト、ゲル又は気体組成物として製剤化される、請求項１～４のいずれか一項に記載の方法。

【請求項６】
前記農業害虫は、アブラムシである、請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
昆虫内の微生物を標的とするように製剤化される、以下：セクロピン、メリチン、コプシン、ドロソマイシン、ダームシジン、アンドロピン、モリシン、セラトトキシン、アバエシン、アピダエシン、プロフェニン、インドリシジン、プロテグリン、タキプレシン又はデフェンシンの１つ以上と少なくとも９０％の配列同一性を有する抗微生物ペプチドを含む組成物。
【請求項８】
前記抗微生物ペプチドは、前記組成物中において約０．１ｎｇ／ｇ～約１００ｍｇ／ｇ又は約０．１ｎｇ／ｍＬ～約１００ｍｇ／ｍＬの濃度である、請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
前記抗微生物ペプチドは、ターゲティングドメインを更に含む、請求項７又は８に記載の組成物。
【請求項１０】
前記抗微生物ペプチドは、細胞透過性ペプチドを更に含む、請求項７～９のいずれか一項に記載の組成物。
【請求項１１】
農業害虫の適応度を低下させる方法であって、
(i)バリダマイシン及び(ii)調節薬剤を含む組成物を農業害虫に送達することを含み、
前記調節薬剤が、農業害虫とそれに常在する微生物との間の相互作用を破綻させる、
前記方法。
【請求項１２】
組成物で処理された農業害虫の適応度が、未処理の農業害虫に比べて相対的に低下する、請求項１１に記載の方法。
【請求項１３】
農業昆虫害虫の適応度の低下が、昆虫の生理学的パラメータの低下として、又は昆虫の死亡として測定される、請求項１２に記載の方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０６７８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０６７８】
他の実施形態
前述の本発明は、理解を明確にするために説明及び例として幾らか詳細に記載されているが、そうした記載及び例が本発明の範囲を限定するものと解釈されてはならない。本明細書に引用される全ての特許及び科学文献の開示は、全体として参照により明示的に援用される。
本発明は、例えば以下の実施形態を包含する：
［実施形態１］農業害虫の適応度を低下させる方法であって、
以下：セクロピン（配列番号８２）、メリチン、コプシン、ドロソマイシン（配列番号９３）、ダームシジン（配列番号８１）、アンドロピン（配列番号８３）、モリシン（配列番号８４）、セラトトキシン（配列番号８５）、アバエシン（配列番号８６）、アピダエシン（配列番号８７）、プロフェニン（配列番号８８）、インドリシジン（配列番号８９）、プロテグリン（配列番号９０）、タキプレシン（配列番号９１）又はデフェンシン（配列番号９２）の１つ以上と少なくとも９０％の配列同一性を有する抗微生物ペプチドを前記農業害虫に送達すること
を含む方法。
［実施形態２］前記送達は、前記農業害虫が成長、生活、繁殖、摂餌又は寄生する少なく

とも１つの生息場所に前記抗微生物ペプチドを送達することを含む、実施形態１に記載の方法。
［実施形態３］前記送達は、前記抗微生物ペプチドを農産物上に噴霧することを含む、実施形態１又は２に記載の方法。
［実施形態４］前記抗微生物ペプチドは、前記農業害虫による摂取のための、昆虫が摂食可能な組成物として送達される、実施形態１～３のいずれかに記載の方法。
［実施形態５］前記抗微生物ペプチドは、農業的に許容可能な担体と共に液体、固体、エアロゾル、ペースト、ゲル又は気体組成物として製剤化される、実施形態１～４のいずれかに記載の方法。
［実施形態６］前記農業害虫は、アブラムシである、実施形態１～５のいずれかに記載の方法。
［実施形態７］昆虫内の微生物を標的とするように製剤化される、以下：セクロピン、メリチン、コプシン、ドロソマイシン、ダームシジン、アンドロピン、モリシン、セラトトキシン、アバエシン、アピダエシン、プロフェニン、インドリシジン、プロテグリン、タキプレシン又はデフェンシンの１つ以上と少なくとも９０％の配列同一性を有する抗微生物ペプチドを含む組成物。
［実施形態８］前記抗微生物ペプチドは、前記組成物中において約０．１ｎｇ／ｇ～約１００ｍｇ／ｇ又は約０．１ｎｇ／ｍＬ～約１００ｍｇ／ｍＬの濃度である、実施形態７に記載の組成物。
［実施形態９］前記抗微生物ペプチドは、ターゲティングドメインを更に含む、実施形態７又は８に記載の組成物。
［実施形態１０］前記抗微生物ペプチドは、細胞透過性ペプチドを更に含む、実施形態７～９のいずれかに記載の組成物。